

令和5年度第1回壬生町地域公共交通会議 会議結果

1. 日時 令和5年5月31日(水) 10:00~11:30

2. 会場 壬生町役場 特別会議室 1・2

3. 出席者

出席者 18名 欠席 4名

内山委員 藤賀委員 神永委員 荒川委員 塩田委員 小矢島委員 白石委員 中山委員

荒川委員 佐山委員 島田委員 長田委員 上野委員 柏木委員 横尾委員(代) 星野委員(代)

人見委員 増山委員

4. 会長、副会長選出

会長:長田委員(宇都宮大学准教授)

副会長:増山委員(壬生町役場総務部長)

5. 報告

1) デマンドタクシー「みぶまる」令和4年度運行実績について

2) 広域連携バス(ゆうがおバス)の運行実績について

3) 壬生町コミュニティバス「みぶーぶ」の運行について

6. 議題

1) 交通不便地域の変更について

⇒承認

2) 生活交通確保維持改善計画について

⇒承認(ただし、運輸局とやりとりを行い、内容の修正等をした上での申請)

3) 県民の日に合わせた壬生町コミュニティバス「みぶーぶ」無料運行について

⇒承認

4) 壬生町コミュニティバス「みぶーぶ」利用者アンケートの回答に係る運賃割引の実施について

⇒承認

【質疑応答】

5. 報告

1) デマンドタクシー「みぶまる」運行実績について

委員:下野市、上三川の登録が増加しているが、町外での利用料金は一律料金か。

事務局:壬生町のデマンドタクシーが利用できる範囲(町内及びゆうがおパークまで)であれば、町内・町外者とも料金は一律となる。下野市・上三川町のデマンドタクシーを利用する場合は、各市町のデマンドタクシー料金となる。

委員:①デマンド登録者が949人増加し、利用数が減少している原因は、どういうことが考えられるか。

②利用登録者 6868人の中に死亡者の人数等が含まれているか。

事務局:①利用者が減っている詳細な分析はできていないが、登録者の増加に関しては、高齢者の事故等の増加によって、近年免許返納者数が増えてきており、自家用車ではなくデマンドタクシーの利用需要が増えてきていることから、登録者が伸びてきたと考えられる。利用者数と乖離している部分はあるが、登録者が増えてきている要因と考えられる。

会 長：登録者数が増加、利用者数が減少しているため、原因の分析は必要と考えられる。

事務局：②登録者数に関しては、壬生町の登録者に関しては、死亡者データを毎月住民課より受取、登録者数から削除している。ただし、下野市、上三川町に関しては、データの受取りは行っていない為、現状は、登録者数に含まれている可能性はある。

3) 壬生町コミュニティバス「みぶーぶ」の運行について

委 員：①アンケートに関して、コミュニティバスのみに対して行うものなのか。みぶまる等に対してもやるのか。どういった方がコミュニティバスを使っているかも調べる必要があるので幅広く調査をする必要があるのではないかと。

②21条運行で実証運行として始まり、再度実証運行をする形となっているが、本格運行に向けてはどういった考えがあるのか。

事務局：①今回はみぶーぶに対して行い、ルート等の検討に使いたいと考えている。

みぶまるとの関連性はあるので、アンケート内にみぶまるを利用したことがあるか等を聞けるような内容にしていくように考えている。

②スケジュールとしては、実証運行を申請するように書いているが、実証運行を継続していくことが適当なのかどうかは、まだ検討が足りていないので、検討を含めて調整をさせていただきたい。

委 員：壬生高線の乗車数が少ないので壬生高生に対しても、乗ったことがあるか等のアンケートを取る方が良いのではないかと。

事務局：壬生高線に関しても生徒に意見等を聞く必要があると考えられるので、別途検討していきたい。

委 員：循環線に定期券を設定していない理由はどのような理由か。

事務局：定期券を販売するにあたり、ある程度定期券の販売が見込めるところを検討し、循環線より壬生高線の方が定期券の需要、一定の定期券の販売が見込めると判断し、試行として壬生高線に乗る生徒向けへの定期券の販売を実施している。本格運行の際に一般の方向け(循環線)の定期券販売も検討していきたい。

委 員：みぶーぶの運行実績の中で、まだ運行期間が短いので難しいとは思いますが、収支率がどのくらいなのか教えていただきたい。運行が始まる前には、収支率が30~40%と話があったが、現状がどのくらいの収支率か教えていただきたい。

事務局：運行が始まって間もないこともあるが、令和4年度の運行に関しては初期費用等もあり、2・3月の費用に対しての運賃実績としては、以前説明した収支率30%台には及んでいない。手元資料として正確な数値がないが、現状は10%台になっていると思われる。

定期券の販売が当初想定していた販売数に達していないところが大きい要因である。壬生高線での定期券の販売促進を進めることで収支率の向上に努めていきたい。

委 員：5月実績として、5月30日時点で1672人。4月は832人となり、倍増しているため、これから町と協力し定期券販売に尽力していきたい。循環線に関しても400人を超えているため、若干ではあるが増えている傾向であり、今後も需要をしっかりと確保していきたい。

委 員：公共交通の運行に関して、収支率が例えば平均20%の中で、町民に利用しやすい公共交通を作るといふ考え方なのか、あくまで収支率を増やす運行ができるように努めるということなのか。

事務局：収支率が高い方が町の持ち出しは少なくなる。町の税金を使っての運行となるので、一定の収支率に関しては、意識をしながら、できるだけ良い運行体制・運行方法を考え、たくさんの方々が乗っていただいた結果、収支率が上がるという事は意識していきたい。ただし、収支率ばかり意識するのではなく、バランスを考えながら運行を検討していく必要があると考えている。

6. 議題について

1) 交通不便地域の変更について

会 長:対象の人口が6797人だが、みぶーぶの運行前の不便地域の対象人口はどのくらいだったのか。
事務局:おおよそ13000人ぐらいであった。

2) 生活交通確保維持改善計画について

委 員:前回の評価があって、その課題を今回どう反映していくかという部分に関して、どう考えているか。

事務局:前回の評価に対して、課題をどう反映していくかという部分については抜けていたため、追記させていただきます。

会 長:この場で承認とはせず、不足していた内容を追記したもので書面審議を行い、承認が得られたのち関東運輸局に提出する形とする。

※会議の最後に、委員(関東運輸局栃木運輸支局)より、フィーダー補助金の申請書類に関して、関東運輸局に提出してから何度か修正が入るため、その修正も含めて承認という形をとらせていただけないかという意見をいただいたことから、改めて書面審議を行うのではなく、運輸局とのやりとりでの修正も含めて事務局一任という形で承認。

4) 壬生町コミュニティバス「みぶーぶ」利用者アンケートの回答に係る運賃割引の実施について

委 員:紙のみではなくQRコード等を利用した方が、アンケート回収率が上がるのではないかと。

事務局:今回は循環線のみでアンケートの実施を考えており、アンケート結果によって循環線のルート等の検討に活用していきたいと考えている。また、循環線を利用している方々はQRコードよりも紙によるアンケートの方が回収率が良いと見込み、紙での実施とさせていただいた。

今後壬生高線に対してのアンケートは高校生に対してとなり、町のシステムでQRコードと連携しているものがあるため、そちらを活用してアンケートの実施を検討している。

委 員:運賃に関して、支払い方法としてスマホ等の電子決済などは検討しているのかどうか。

事務局:電子決済の拡充がされており、キャッシュレス決済は検討を進めたいと考えているが、現時点でのキャッシュレス決済の導入については目途が立っていないため、実施についての詳細はお答えができない段階である。

会 長:料金を受け取った時にアンケート用紙を配布なのか。アンケート用紙の配布方法は。

事務局:料金受取時にアンケート用紙の配布となるとドライバーの負担となるため、バス車内にアンケート用紙を設置し、利用者に持ち帰っていただく形をとる予定。

ドライバーは現金の代わりにアンケート用紙を受け取る形となる。